

那覇市長 宛

令和 2 年 11 月 25 日

団体名 一般社団法人災害プラットフォームおきなわ

代表者 稲垣暁

担当者 稲垣暁

新型コロナウイルス感染症対応『市民活動チャレンジ助成事業』

中間報告書

令和2年7月 10日付、那覇市指令市ま第1126号で交付決定の通知を受けた当該事業について、下記のとおりの報告します。

1.事業名	アンダーコロナにおける地域防災モデル調査事業(曙小学校区)
2.実施内容 (交付決定から現在までの実績を具体的に記入)	<p>(何をいつ実施したか、対象者や実施場所、事業の実施は計画どおりか、など)</p> <p>7月:コミュニティラジオFM那覇にて、「Okinawa B-camp」スタート。DMPO共同代表の稲垣がメインパーソナリティを務め、本事業での取り組みやその他防災にまつわる発信を行う(継続中)。またRBCラジオ「アップ!!」の防災コーナーでも毎週水曜日に稲垣は出演し、「聞いてますよ」という学校関係者や地域からの声も多い。</p> <p>8月:曙小学校での研修及び現地調査は、学校現場のコロナ対応や緊急事態宣言の再発令により難航。月末には台風9,10号の接近に伴い、公民館や市役所での避難所開設が行われた。</p> <p>9月:DMPOではリアルタイムの台風情報の発信を各種SNS等で行い、現場にも足を運び、コロナ禍での避難所運営の現状について記録を行った。台風通過後は避難所開設された13拠点の内6拠点に事後ヒアリングを実施。那覇市と相談し、当初予定していた曙小学校教職員向けの講座実施を変更し、学校避難所運営を考える上での最新データとして、台風9,10号で開設された那覇市内の避難所に関する施設ヒアリングをまとめて提供する事とした。月末には曙小学校区まちづくり協議会の役員会に出席でき、11月に曙小学校における避難所ゾーニングシミュレーションを行う事となった。</p> <p>10月:11月の避難所ゾーニングシミュレーション(曙小学校舎内ぼうさいさんぽ)に向けて、施設見取り図やシミュレーションで必要となる避難所開設時の基礎情報やチェックリスト、コロナ禍における収容人数計算等の準備を行った。</p> <p>11月:曙小学校にて避難所ゾーニングシミュレーションを実施。校長、教頭をはじめとした学校関係者、曙小学校区まちづくり協議会、社会福祉協議会、DMPO、その他曙小学校区で活動される方、約15名ほどの参加があり、この日はRBC取材も入った実施となった。</p>
3.これまでの活動の振り返り ・良かった点 ・工夫した点 ・不安な点 ・課題や反省点など	<ul style="list-style-type: none">・継続的なラジオ等での発信により、曙小学校区はもちろん、それ以外の方への刺激にも繋がっている感触がある。・台風9,10号での避難情報の発信やその後のヒアリングなど、予定にはなかった活動だが、考えるよりも先に行動した事。そこで得られた情報や経験は本事業でも非常に有益なデータとして活用できそうな運びとなっており、良い点と考える。・今年は新型コロナ感染拡大で学校も日々大変な状況ながら本事業に前向きに関わってくださっている。子供たちにとっても、今年はさまざまな行事が中止になり学校での思い出が少なくなっているが、本事業に絡めてできることはやってみたいという話も出ている。わたしたちとしても、学校側の状況に合わせた臨機応変なサポートや企画の調整/工夫ができている。・曙小学校区まちづくり協議会(まち協)は本事業に非常に前向きである。また、まち協では学校資源を活用したプロジェクトがすでに存在しており、そこに絡めた提案があったほか、那覇市まちづくり市民協働推進課からも連携した講座なども出して頂いている。同メンバーである那覇市社会福祉協議会も、これまで以上に積極的な参画をしてきており、コロナ下における学校と地域のペースに合わせながらも、さまざまな機関とじっくり関係づくりをしながら進んでいる実感があがる。
4.年度内の事業予定	<p>(何をいつ実施するか、対象者や実施場所、など)</p> <p>11,12月:本事業の曙小学校区の記録を活用し、若狭公民館の防災キャンプ事業に絡めて地域会議やワークを行う。本事業の予算ではないが、本事業の目標とする学校と地域による防災連携モデルづくりにつながるよう協働実践を行う。</p> <p>1,2月:曙小学校における避難所ゾーニングシミュレーションの実施成果のまとめ。曙小学校に対して台風9,10号で開設された那覇市内の避難所に関する施設ヒアリングまとめの提供資料作成などに入る。</p> <p><事業期間外></p> <p>3月:事業期間外ではあるが、3月には曙小学校区避難訓練が予定されており、今年は避難訓練にからめて地域連携を深める実践ができればと考えている。</p>

台風9,10号における避難状況や事後ヒアリング(一部抜粋)

名称	開設日時	閉鎖日時	避難者数
小緑南公民館	2020/08/31 12:00	-	7
城西小学校	2020/08/31 15:00	2020/09/01 07:00	-
安楽小学校	2020/08/31 15:00	2020/09/01 07:00	-
神原中学校	2020/08/31 15:00	2020/09/01 07:00	0
金城中学校	2020/08/31 15:00	2020/09/01 07:00	-
那覇市役所本庁舎	2020/08/31 12:00	-	38
首里公民館	2020/08/31 12:00	-	16
中央公民館	2020/08/31 12:00	-	11
石嶺公民館	2020/08/31 12:00	2020/09/01 02:00	0
なは市民協働プラザ	2020/08/31 12:00	-	1
那覇市津波避難ビル	2020/08/31 12:00	-	7
繁多川公民館	2020/08/31 12:00	-	1
若狭公民館	2020/08/31 12:00	-	-
合計			81

曙小学校区避難所ゾーニングシミュレーション時に配布した、避難所開設における基礎情報やチェックリスト、及びコロナ禍における収容人数計算等の資料(一部抜粋)

2. 曙小学校が避難所になると想定したゾーニングチェック

① チェック内容

- 1) 各教室や廊下で何人が生活できると思われるか?
- 2) 発熱者、体調不良者、福祉対応が必要な人、妊婦、乳幼児、ペット同伴者等はどう分かれるとよいか?
- 3) 発熱者、体調不良者専用の通路やトイレをどこに設けるか?

② 収容人数の計算ポイント

曙・新港地区の平均的な家族人数2.4人をベースに、以下の4パターンについて各教室に何人を収容できるか、あるいは何区画を確保できるか考える。(図面に面積は出ているが、実際の教室は使える場所に限られることも)

① テント/パーティなし、区画だけ 1人あたり5.5㎡として計算 *SD=Social Distance	② テント/パーティなし、区画だけ 1人あたり4.1㎡として計算 (職員時の対応を想定)	③ 那覇市購入のテントで区画 テント4.4㎡+通路1.7㎡ =1区画6.5㎡で計算	④ パーティションでの区画 居住空間を4㎡に設定 =1区画9㎡で計算
--	--	---	--

前後に1mのSD・通路

・寝床の広さ: 1.8×1.5m
= 2.7㎡
・プラス周囲に1mのSD・通路
= 3.8×3.5m
・合計 13.3㎡が必要
= 1人平均: 5.5㎡

間隔に0.75mのSD・通路

・寝床の広さ: 1.8×1.5m
・プラス周囲に0.75mのSD・通路=3.3×3m
・合計 9.9㎡が必要
= 1人平均: 4.1㎡

前方に1mのSD・通路

・テントの大きさ: 2.1×2.1m
・前方に1mのSD・通路
・合計 6.5㎡が必要
居住人員: 4人程度

2辺に1mのSD・通路

・居住空間: 2×2m
・2辺に1mのSD・通路
・合計 9㎡が必要
居住人員: 4人程度

曙小学校区避難所ゾーニングシミュレーション(曙小学校校内ぼうさいさんぽ)の写真(スタート時ミーティング、教室前、体育館)



5. 写真
(レイアウト自由・
簡単な説明文を記入)



ラジオでの発信の様子



* 11月25日(水) 提出

* 提出方法: 直接提出・メールのいずれか

* 提出いただいた中間報告書は、ホームページにそのまま掲載予定です。枠を広げて構いませんが、2ページに収まるように記入してください。